

塗屋造町家の外観分類とその分布に関する研究

A Study on the Facade Types of Fire proofing Traditional Houses (*Nuriya-dukuri*) and Their Distribution

小島彩乃¹・山崎正史²・衣笠聡³

Ayano Kojima, Masafumi Yamasaki and Satoshi Kinugasa

¹立命館大学大学院 理工学研究科 創造理工学専攻 (〒525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1)

Graduate School of Science and Engineering, Ritsumeikan University

²立命館大学教授 理工学部建築都市デザイン学科 (〒525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1)

Professor, Department of Architecture and Urban Design, Ritsumeikan University

³立命館大学 理工学部建築都市デザイン学科 (〒525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1)

Department of Architecture and Urban Design, Ritsumeikan University

Among Japanese traditional town houses (*machiya*), there are some types of houses with fire proofing façade designs. Their facades are covered with plaster hiding wooden members. They are called *Nuriya* or *Dozo-dukuri*. The difference are clarified in this article. Those designs are classified with their façade compositions and components. Their distribution in whole Japan is investigated. Kanto area and Tohoku districts have *Dozo-dukuri* type, Kansai and Chugoku districts have *Nuriya* type. There is another type with mixture of those two in Kyushu, Chugoku and Chubu districts has.

Key Words: *Nuriya-dukuri*, *machiya*, *façade design*

1. はじめに

木造は火に弱い、だから都市建築は非木造あるいは木造でも防火建築とするという防災の考え方が建築基準法にみられる。日本の市街地では広範な地域が準防火地区に指定され、その防火規定に合わせるために伝統的木造建築物の継承が困難となり多くが失われてきたといえよう。しかしながら、日本には江戸時代より伝統的構法の町家でも防火対策がとられてきたものがある。その代表的な手法が土蔵をはじめとする外壁を土壁や漆喰で塗込め木部を露出しない手法であり、これを町屋に適用したものが塗屋造町屋あるいは土蔵造町家と呼ばれてきたものである。多くの地域に残る塗屋造町家は、地域ごとに様々な特色がある。本研究では、塗込めという伝統的木造建造物の防火に関わる工夫に注目し、これらの塗屋造町家の外観デザインの多様性を広く全国的に概観し、その類型と日本における分布の状況を検討したい。

2. 塗屋造町家の外観類型別特性

(1) 塗屋造町家共通の定義

塗屋造町家とは、伝統的町家で防火のために外壁を土壁・漆喰などで塗り籠めているものである。その大半は、火事が起こった時に延焼をおこしやすい2階部の壁面と軒裏を塗り籠めているが、中には1階壁面も部分的に塗り籠める例もある。関東では江戸時代後期から重厚で小さな縦長窓をもつ土蔵のデザインをその

まま取り入れた塗屋があり、これは特に土蔵造と呼ばれる。土蔵造については木村成一らの既往研究があるが¹⁾、いっぽうこれまで土蔵造ではない塗屋造町家については詳細な研究がない。本稿ではこの塗屋造町家に主に注目しつつそれらの外観意匠の違いについて考察をおこなう。

(2) 研究方法

本研究では、書籍に掲載されている写真を検討し、外観の分類をおこなった。書籍としては『日本の町並みⅠ（近畿、東海、北陸）』、『日本の町並みⅡ（中国、四国、九州、沖縄）』、『日本の町並みⅢ（関東、甲信越、東北、北海道）』²⁾、『図説 日本の住まい』³⁾、『町屋と町並み』⁴⁾を参考にした。外観を分類できる程度の見ることのできた写真計144枚を抽出し、それらについて分析を行った。

(3) 外壁を塗込めた町家の外観類型と特徴

I. 塗屋造型：二階壁面を土壁または漆喰で塗込めたもので、軒の出が一般町家とほぼ同じく70cm～90cm程度出ており、その軒裏も塗込めている町家である。2階開口部はムシコ窓を有するのが一般的であるが、横長の一般的な建具の窓の場合もある。下のⅡ、Ⅲのような顕著な分厚いの軒と縦長あるいは正方形の窓を有さない、一般的な町家を塗込めたものといえる。

Ⅱ. 土蔵造型：二階壁面を塗込めとするが、土蔵と同じく扉側面を蛇腹にした観音開戸あるいはその片開き戸、分厚い軒で蛇腹または平坦な鉢巻き型の軒をもつもの。軒先には軒桁がある場合とない場合がある。

Ⅲ. 塗屋造土蔵型：九州八女福島などでみられる形式で、2階壁面を塗込めとし、縦長あるいは正方形の窓を有すが土蔵造のような扉を持たない。分厚い軒を有すがⅠの土蔵造のような蛇腹をもたないか、下側を曲面にした浅い軒を有す。外観の印象がⅠとⅡの両者の中間的な特徴を持っている。

以上の3類型が大きな分類である。



写真1 塗屋造（近畿・今井町）



写真2 土蔵造（関東・川越）



写真3 塗屋造土蔵型（九州・有田）

(4) 塗屋造型町家の外観デザインの特徴

a) 塗屋造型町家の二階部壁面

これには、①壁面が平坦な大壁造形式と、柱型を突出させて表現する②柱型表現式がある。

b) 軒先軒裏の形式

①垂木形隠し型（垂木の凹凸の形を見せないように隠して軒下を平坦に塗り籠めている形式）と②垂木形見せ型（軒下で垂木の形を凹凸で残して塗り籠めている形式。これには角棒形で凹凸にするもの、垂木を波型に塗り込めるものの2種がある。）

c) 卯建・袖壁

卯建（ウダツ）・袖壁（ソデカベ）が、壁面・軒下形式とは独立して設置される場合がある。塗り籠めた卯建を用いて防火を図るもの（写真4）。軒下にやはり塗り籠めた袖壁を配して図るものがある（写真5）。中には卯建のように屋根をつけた小さな壁を軒下に配するものが見られる（写真6）。これも当地では卯建と呼ばれる。ここでは軒下型卯建と呼ぶことにする。



写真4 垂木形隠し型



写真5 垂木形見せ型



写真6 波形垂木見せ型



写真7 本卯建



写真8 袖壁



写真9 軒下卯建

3. 塗屋造型、土蔵型、塗屋造土蔵型町家の全国分布

次に各地方の防火型伝統的町家について、上記の塗屋造型、土蔵型、塗屋造土蔵型のいずれが存在するのか、全国的に概観する。

(1) 東北地方－土蔵造型

写真資料の東北地方で見られた塗込め町家は土蔵造型である。1階の下屋庇も塗籠め、2階の窓は土蔵と同じで観音開窓である。なまこ壁を有するものが多い。東北地方の写真例では屋根を浮かし乗せている置屋根形式を土蔵造型町家に採用している例が目目された。置屋根というのは広く土蔵の屋根形式として全国的に見られるもので屋根が燃えても内部は焼けずに残るように設計されたものである。

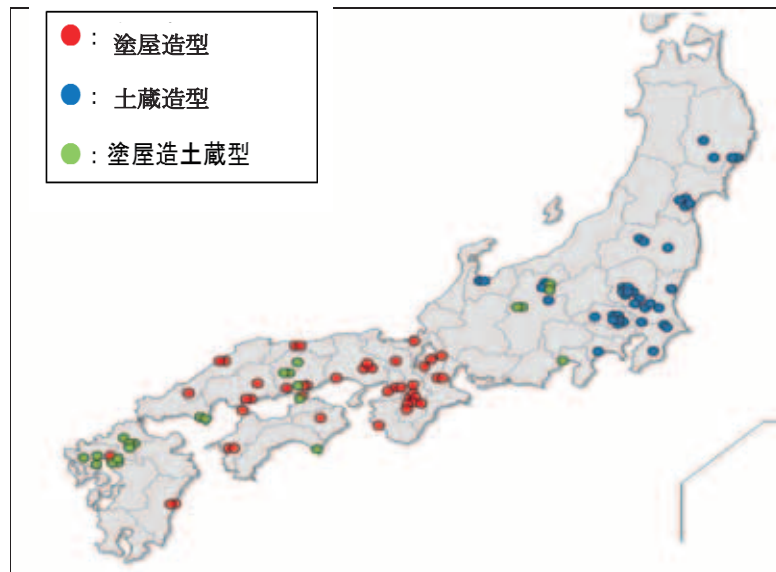


図1 塗屋造型、土蔵型、塗屋造土蔵型町家の全国分布

(2) 関東地方－土蔵造型

写真資料の関東地方で見られた土蔵造町家は、大きく分けて栃木を含む北関東と川越を含む南関東に分けることができ、土蔵造型の中でも出桁造蛇腹型の軒を持つものが多い傾向がある。しかし北関東と南関東で分けてみたときに土蔵自身と同じ形の観音開窓を有するものは南関東では見られたが、北関東では見受けられなかった。黒漆喰で塗籠めているところが多く、形・色とも重厚な町家が多く見られる関東－東北地方で

は嚴重な防火デザインとなっている。

(3)中部地方－塗壁造型・土蔵造型の混在

中部地方には典型的な形は見られず、土蔵造町家の要素を持ちながらも大壁造ではなく、柱の形を見せて塗るもの、出桁蛇腹軒を持ちながらも戸袋塗で広い開口を持つもの、土蔵造型と塗屋造型どちらに分類するか判断の難しいものがいくつかあった。

(4)近畿地方－塗屋造型

近畿地方は、京都、滋賀では町家のデザインは真壁で木部を見せる意匠が多いが、三重、奈良のほうへくると塗屋造町家がよく見られるようになる。近畿の塗屋のデザインでは、2階開口部と軒先形式に特徴がある。2階開口部を虫籠窓（塗籠の格子窓）とし、軒先の垂木の凹凸をデザインとして生かしている。同じ虫籠窓であっても、窓の輪郭と格子を壁面より浮き上がらせるもの、四角や円形等を用いた窓で特徴を見せるものなどがある。垂木形見せ型と、Ⅱ柱型表現形式の組み合わせは、凹凸で建物の外観をくっきり見せることがデザインになっている。



写真10 近畿地方の例



写真11 中国地方の例

(5)中国地方－塗屋造型（なまこ壁付）

近畿地方と同じく土蔵造型はなく塗屋造型であるが、倉敷をはじめなまこ壁を用いる例が多くみられる。なまこ壁は瓦を斜めに貼り付けた壁で、土蔵壁面に多く用いるデザインで、その分近畿地方よりは土蔵に近い防火的なものとなっている。

(6)九州地方－塗屋造土蔵型

北九州を中心に特別なデザインの塗屋造土蔵型が見られる。その特徴は2(3)で述べたとおりである。窓はかなり大きく、関東のように縦長の扉付きの窓は用いない。分厚い軒の重厚なデザインがこの地方の塗屋造の特徴である。

4. まとめ

木部を塗込める防火型町家として、塗屋造・土蔵造・塗屋造土蔵型の3種があることを確認し、これらの町家の外観構成を定義した。またこれらの種類の全国的な分布を概観した。東北・関東地方は土蔵造型、中部地方は塗屋造型・土蔵造型が混在し、近畿・中国地方は塗屋造型、九州地方は塗屋造土蔵型が分布するというのが大きな特徴である。

参考文献

- 1) 『関東における土蔵造り町家に関する研究』 木村成一、羽生修二著 日本建築学会大会学術講演梗概集 (2003)
 - 2) 『日本の町並みⅠ (近畿、東海、北陸)』 平凡社 (2003)、『日本の町並みⅡ (中国、四国、九州、沖縄)』 平凡社 (2003)、『日本の町並みⅢ (関東、甲信越、東北、北海道)』 平凡社 (2004)
 - 3) 『図説 日本の住まい』 中山章著 建築資料研究社 (2009)
 - 4) 『町屋と町並み』 伊藤毅著 山川出版社 (2007)
- 写真出典：写真1、4、5、6、10：『日本の町並みⅠ』、写真3、7、8、9：『日本の町並みⅡ』、写真2：『日本の町並みⅢ』いずれも平凡社前掲書